

コウノトリ野生復帰推進連絡協議会

2023年8月3日

まるいち 代表 安達 陽一

自己紹介

- 1992年兵庫県豊岡市生まれ
- 両親: サラリーマン、祖父母: 専業農家の家庭
- 6歳(幼稚園児)「大きくなったらおじいちゃんと農業をする」
- 15歳(中学生)「中学卒業したら農家になる」
- 渋々、高校、大学へ進学

「奇跡のりんご」に出会う



弘前大学(農学生命科学部)へ進学

大学での研究「無施肥無農薬栽培圃場における栄養塩循環の解明」

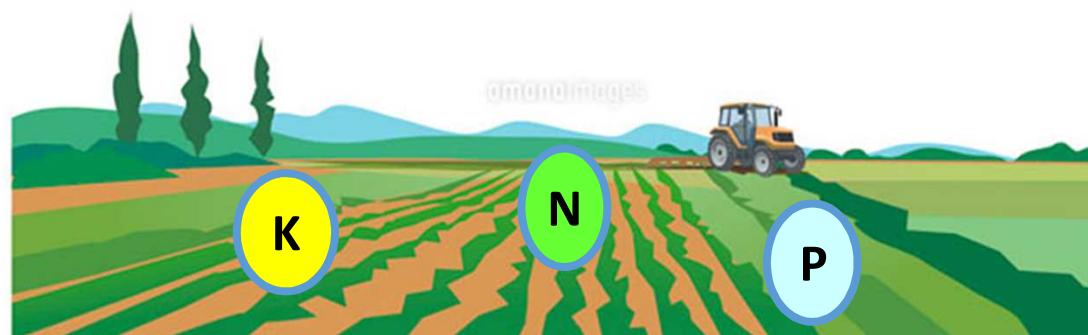
作物の生育には様々な養分(特にN、P、K)が必要
農地では「収穫」という形で外部へ元素が持ち出される
持ち出された分の元素は肥料によって補給



無施肥栽培では肥料による
「投入」がない



↑ 持ち出し



大学院(修士課程)に進学

土壤中の微生物に着目して研究を継続



6年間の学生生活の中で日本各地の農家と交流し、
農業の厳しさを感じる
→就職することに(農業は早期退職後の楽しみに...)

豊岡市役所 入庁(2017年)

農林水産課へ配属

1年目(2017年):有害鳥獣対策、畜産

2年目(2018年):コウノトリ育む農法の推進

3年目(2019年):認定農業者、新規就農者支援

4年目(2020年):7月に防災課へ異動

- ・豊岡の様々な農家と交流し、農業の魅力を再認識
- ・コウノトリ育む農法にも惹かれる
- ・2020年、子供が生まれ、将来を考える



就農(2021年4月)

- ・実家の農業を事業継承
- ・水稻 5ha(無農薬3ha、減農薬2ha)
- ・畑作 1ha
 - ビニールハウス
 - トマト、ピーマン、ホウレンソウ
 - 露地
 - ニンジン、白ネギ、その他(約20品目)



課題① 未熟な栽培技術

- ・機械の操作
 - ・栽培管理のタイミング
 - ・除草作業の精度向上、省力化
-
- ・収穫量の減少
(10aあたり 【慣行】480kg → 【育む】300kg)



課題② 膨大な設備投資

- ・トラクター、田植え機、除草機、コンバイン
- ・ドライブハロー、畔塗機、肥料散布機
- ・乾燥機、糲摺り機、色彩選別機、倉庫



課題③ 資材の高騰、据え置きの米価

- ・肥料、燃料、機械、諸々の値上げ
- ・米価は据え置き



課題④ コウノトリ育む農法の評価

- ・豊岡市民ですら、特徴や意義を理解している人は少ない
- ・コウノトリ米は美味しいという根強いイメージ



目標

全面積無農薬栽培での経営確立

- ・栽培技術の向上
- ・独自販路の開拓
- ・コウノトリ育む農法の認知度向上、悪い食味イメージの打破